



プレスリリース

報道関係者各位

2025 年 11 月 28 日

Veneno Technologies 株式会社

アカデミア創薬に新しい風、創薬エンジン始動！

－ Veneno Technologies とモルミル、アカデミア創薬を産業化する新たな連携体制を設立 －

創薬の主役がアカデミア発ベンチャーへと移りつつある中、日本では依然としてアカデミア研究成果の産業化が十分に進んでいません。その背景には、創薬における実務的な知識・経験の不足が大きな課題として存在します。

この課題を打破するため、Veneno Technologies 株式会社（本社：茨城県つくば市、代表取締役：久野 孝稔、以下「Veneno」）と、アカデミア創薬シーズの発掘と磨き込みに強みを持つモルミル株式会社（本社：奈良県橿原市、代表取締役：森 英一朗、以下「モルミル」）は、アカデミア創薬を本格的に推進するための戦略的提携を開始し、「アカデミア創薬の産業化モデル」を共創する新たな連携体制を構築しました。

現在、海外では多くの革新的医薬品がアカデミア発ベンチャー企業から生まれています。一方、日本でも国の助成プログラムや大学発ベンチャー支援制度が整備されています。しかしながら、創薬の知識や経験が十分には企業からベンチャー企業へ流れてはおらず、素晴らしいアカデミアの研究成果を実際の創薬プロジェクトへと転換し、産業として成立させる仕組みはまだ十分とは言えません。

特に、

- ・適切なターゲット選定（Target Discovery）
- ・モダリティ選択とシーズ創出
- ・前臨床試験・臨床試験を含む実務的な開発プロセスの設計

といった領域で、アカデミア単独ではリソースや経験が不足しているケースが多く見られます。

こうした状況を踏まえ、Veneno とモルミルは、アカデミアの持つ優れた研究シーズに、産業界レベルの創薬ノウハウと実行力を掛け合わせることで、「研究で終わらせない創薬」を実現

することを目指します。本提携は、アカデミアに眠る創薬ポテンシャルを掘り起こし、実際の医薬品候補として製薬企業や投資家につなげていくための、一気通貫の「創薬エンジン」を構築する取り組みです。

【Veneno とモルミル、それぞれの強み】

■Veneno Technologies について

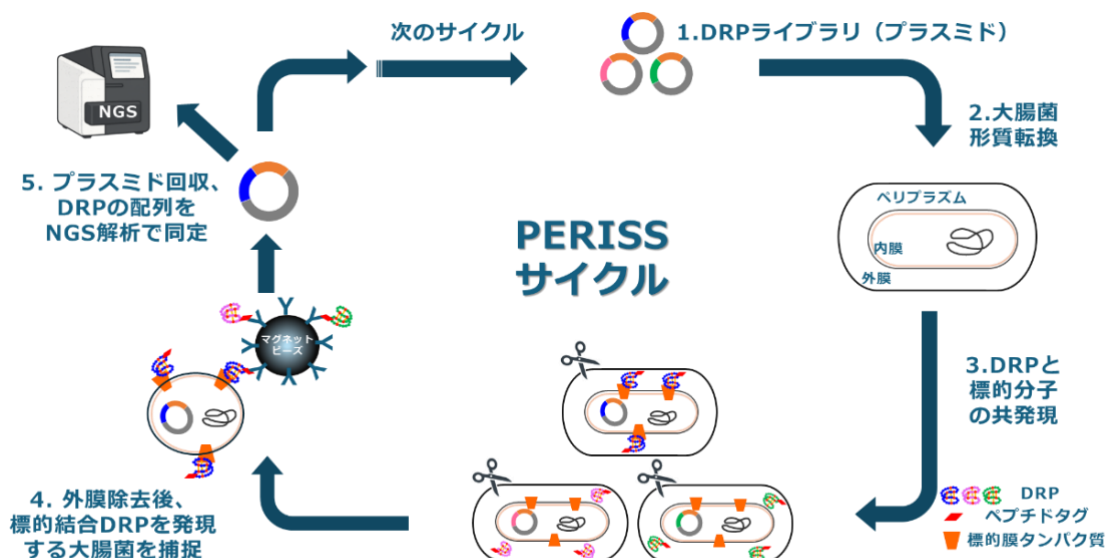
Veneno は、独自の Disulfide-Rich Peptide（以下、DRP）創薬プラットフォームおよび「PERISS 法」*と呼ばれる高速シーズ創出技術を強みとし、これまでに多様な創薬ターゲットに対して高親和性かつ高安定性のペプチドを創出してきました。

DRP は、

- 高い標的選択性
- 優れた安定性
- 様々な標的分子に対する適用可能性

を兼ね備えた新しいモダリティとして期待されており、抗体医薬や低分子医薬では対応が難しいターゲットに対しても有望なアプローチを提供します。

さらに Veneno では、DRP 創薬で蓄積される大規模データを活用し、AI を導入したデザイン最適化にも取り組んでいます。標的・配列・活性プロファイルの関係性を AI で学習させることで、DRP の性能向上だけでなく、低分子量 DRP 領域で得られた知見を低分子創薬へとブリッジする「低分子化」にもチャレンジしています。DRP の中高分子と低分子の両モダリティを視野に入れた設計を行うことで、疾患ごとに最適な創薬戦略を提案できるプラットフォームへと進化させていきます。





＊PERISS 法：Veneno Technologies が独自に開発した進化分子工学ベースの創薬プラットフォームで、数十億～数百億種類に及ぶジスルフィドリッチペプチド（DRP）ライブラリを体系的に構築し、標的となる膜タンパク質などに対して、高親和性かつ高選択性の DRP シーズを高速かつ網羅的に取得できる技術。

■モルミル株式会社について

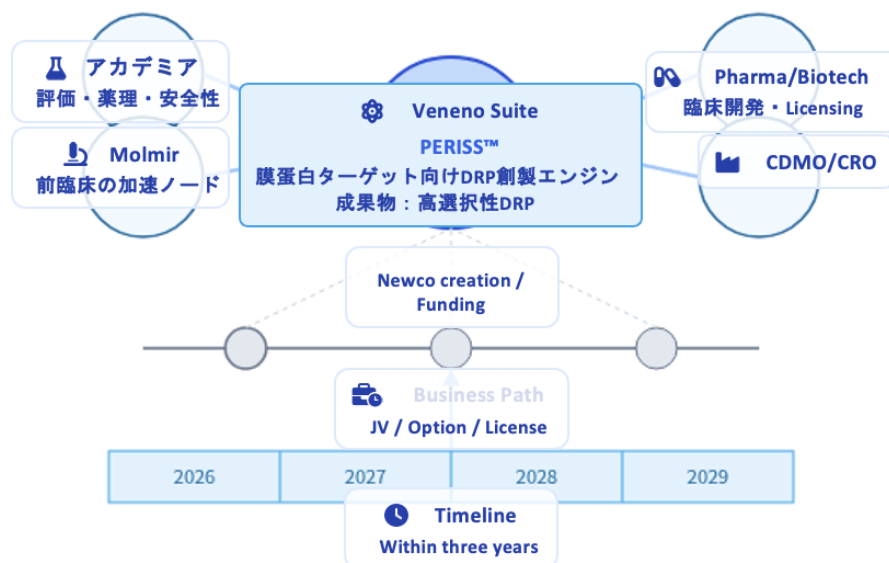
一方、モルミルは独自の分子動態評価技術に加え、アカデミアと産業界をつなぐハブとして、前臨床研究ネットワークを構築し、多くの大学・医療機関と連携して創薬支援を行っています。

- ・ 分子動態評価技術を用いた創薬研究開発
- ・ 全国の大学・研究機関・医療機関と連携した評価ネットワーク
- ・ in vitro・in vivo を含む前臨床・臨床試験設計・マネジメントのノウハウ
- ・ 研究シーズの事業化・ライセンス支援

といった機能を備え、アカデミア研究者の「研究成果を社会実装したい」という思いを支えるプラットフォームを提供しています。

【新たな枠組み：アカデミア創薬の「創薬エンジン」】

今回の提携により、両社は以下の流れでアカデミア創薬の産業化モデルを実現していきます。





1. 優良標的の選定 (Target Discovery)

モルミルと Veneno が共同で疾患領域・ターゲットを選定し、臨床的意義と実現可能性を精査します。アカデミア研究シーズの中から、産業化のポテンシャルが高いテーマを選び出し、創薬プロジェクトへと昇華させるプロセスを整備します。

2. DRP シーズ創出 (Seed Generation)

Veneno の PERISS 法を用い、標的に最適化された高性能 DRP を設計・生成します。

3. 前臨床試験・臨床試験の推進 (Preclinical・Clinical Study)

モルミルのネットワークを通じてアカデミア研究者・医療機関と連携し、当社のコア技術である分子動態評価技術を核に、迅速かつ精度の高い *in vitro*・*in vivo* 評価を実施します。薬効・安全性評価を含む前臨床研究や臨床試験を体系的に進めることで、製薬企業や投資家へとつながる明確な「出口戦略」を描きます。

この新たな枠組みは、単なる共同研究にとどまらず、「アカデミア創薬の出口戦略を一気通貫で実現する創薬エンジン」として機能することを目指しています。

【各社コメント】

■Veneno Technologies 株式会社 代表取締役 久野 孝稔

「日本のアカデミアには、世界に通用する優れた研究成果が数多く眠っています。Veneno の DRP 技術とモルミルのネットワークを融合させることで、アカデミア発の創薬を産業として成立させる仕組みを創りたいと考えています。

また、Veneno Technologies だけではカバーしきれないアカデミア研究者・医療機関との連携による *in vitro*・*in vivo* 評価を、モルミル社との協業によって補完しながら推進してまいります。研究者の皆様の情熱が、実際の医薬品という形で患者さんのもたらす届くまでを一貫して支えるエコシステムを築いていきたいと考えています。」

■モルミル株式会社 代表取締役 森 英一朗

「研究者が持つ創薬シーズを社会実装へと導くためには、科学と製薬の両面の知見が不可欠です。Veneno との協業により、優れた標的とモダリティを組み合わせ、アカデミア創薬の新しいモデルケースを築いていきます。

今回の連携を通じて、アカデミア発ベンチャーが国内外の製薬企業と対等に議論できる『創薬エンジン』を日本から発信し、多くの疾患領域で患者さんの選択肢を広げていくことを目指します。」



【今後の展開】

今後、両社は特定疾患領域（がん・神経変性疾患・免疫疾患など）にフォーカスした共同プロジェクトを立ち上げるとともに、AMED や JST など公的助成プログラムとの連動も視野に入れています。

また、国内外の製薬企業とのパートナーシップを通じ、創出された DRP シーズの早期実用化を目指します。アカデミア発の研究成果が、より短い時間軸で臨床開発へとつながる「日本発の創薬エコシステム」を構築していきます。

Veneno およびモルミルは、アカデミア・ベンチャー・製薬企業・投資家と連携しながら、アカデミア創薬の新しいモデルづくりに継続的に取り組んでまいります。

【会社概要】

《Veneno Technologies 株式会社》

所在地：茨城県つくば市

代表者：代表取締役 久野 孝稔

事業内容：Disulfide-Rich Peptide (DRP) を基盤とした創薬プラットフォームの構築、技術ライセンス、共同研究

特徴技術：PERISS 法、DRP デザイン・スクリーニング・製造の一貫体制

《モルミル株式会社》

所在地：奈良県橿原市

代表者：代表取締役 森 英一朗

事業内容：分子動態評価技術を用いた創薬研究開発、アカデミア創薬支援、前臨床・臨床試験ネットワークの構築、研究シーズの事業化支援

特徴：分子動態創薬開発、全国大学・研究機関との連携による創薬支援基盤



【本件に関するお問い合わせ先】

Veneno Technologies 株式会社

事業開発担当：松川泰久

E-mail：info@veneno.jp

Web：https://veneno.jp/ja/jphome/

モルミル株式会社

広報担当：山本政高

E-mail：contact@molmir.co.jp

Web：https://www.molmir.co.jp